

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901134		
法人名	社会福祉法人 美瑛慈光会		
事業所名	グループホーム 虹		
所在地	北海道上川郡美瑛町南町3丁目3番8号		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「本人の望む暮らしの実現のためにチームの連携を高め支援していく」「常に相手に与える印象が良い接遇を目指す」「明るくおだやかで、安心できる環境づくりを心掛ける」「お互いの信頼関係を深め、相手の視点・立場を考え、思いやりの心を持って接する」「その人らしくあるために「自立支援」につながる支援を目指す」「本人の暮らしが豊かになるような支援を目指す」の6項目を事業所の理念にかけ、地域に密着した事業所を目指しています。また、小規模多機能事業所と併設しているため、住み替えることになっても馴染の環境、職員が関わるので、安心して利用すること出来ます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=0172901134-00&amp;Se">mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=0172901134-00&amp;Se</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム虹は美瑛町内南地区あり、平成14年社会福祉法人美瑛慈光会によって小規模多機能事業所を併設して1ユニット7名の利用者を定員として始めこの4月から9床に増床した新築のグループホームを敷地内に開設しています。母体の法人は町と一体と成って高齢者福祉事業を展開しており、利用者により豊かな生活を提供すると共に、地域と更に繋がりを深め、安心と信頼に向けた関係づくりに取り組んでいます。コロナ禍の状況で行事等の実施が中止されていますが、職場環境を整え、研修等で技量や意欲を高め、今年から業務提案書を職員に用意し、必要な備品や職員体制、運営など多方面で提案を呼びかけ職員のやる気を高めています。また、法人で職員研修の年計画を立て介護向上を目指しています。利用者ひとり一人に沿ったより快適に暮らせるよう自立に向けた介護を指向し実践しています。今年は町内会の住民を数名雇用し、地域の目を通した開放型事業所を目指し、高齢者に向けた講座を開き認知症の役割を担う拠点となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所会議で読み込み、定期的に振り返っている。今後も定期的に振り返り、自己評価を行い、チーム全体で意識を高めていきたい。	職員会議で事業所理念・基本方針を読み込み1つ1つを丁寧に行うことで職員間の共有や振り返りを促し、利用者の日々の支援に反映できるように取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍の関係もあり、町内清掃に参加する程度に終わる。虹通院の定期回覧で運営状況を発信している。	地域に目を向け、町内会に住む住民を数名雇用し、社会開放型事業所になるように努めています。いきいきキャラバンの場所で、地域の高齢者向けの講座を実施し、町内会に貢献しています。また、地域通信便りで、認知症紹介欄を設け家族に周知・理解に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の所長が、キャラバン・メイトの活動を行っており、各町内会や学校などで普及活動を行っている。今年度はコロナ禍の為、実施件数が少なかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書類報告を会議に代えさせていただくことが多かったが、集まった際には、感染対策について等貴重なご意見をいただいたり、労いの言葉をいただくことができた。	運営推進会議は新型コロナウイルス感染症の関係で書面会議でなされています。家族、町内会役、民生委員、知見者などに利用者状況、行事報告、ヒヤリハット、事故報告を行い現状が分かるようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の為、地域ケア会議への出席の機会は減ってしまったが、随時電話等で連絡を取り合い、連携している。	関係機関の窓口とは、利用者の生活状況、空き情報等は行政と連携し情報交換を行い助言を頂きながら運営に活かすようにしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の全体会議や委員会で身体拘束や虐待について話し合っている。当事業所では、夜間のみ施錠を行っており、また、転倒などの危険性がある方のみご家族の了承を得て夜間センサー発信機を使用していますが、使用についてはなるべく必要最小限にするよう話し合っている。	身体拘束をしないケアを基本とした指針を定め、身体拘束等適正化委員会を定期的開催し、具体的な対応について話し合っています。また、外部・内部研修では適切なケアの周知徹底に努め、言葉遣いについては繰り返し意識の刷り込みを行い、禁止行為、不適切な言動について理解し身体拘束の無い介護を心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化対策委員会で話し合っている。また、併設している小多機サービス評価の自己評価の中でも虐待の項目があるので、合わせて評価している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は、知っているが、実際対象となる方が利用されていないので、勉強不足ではある。今後職員全体で理解を深めていけるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時とも丁寧に説明している。また、不安や疑問な点等訪ねやすい雰囲気になるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等から要望があれば、可能な限り運営に反映させているが、今年度はほとんど要望はなかった。	電話連絡や窓口で利用者への差し入れの際に、要望・意見を聞き取っています。コロナ禍の中、面会制限や窓越しでの面会などを工夫行っています。日々の利用者の様子を伝えるため写真を多く掲載し通信便りを送付し、家族の安心に繋がっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常で随時受け付けたり、年1回プランニングシートという名称のレポートを提出してもらう中で、職員の意見を聞く機会を設けている。	会議や日常の中でいつでも職員からの意見や提案等を聞き、運営に反映させています。休暇は希望に沿うように職員体制に影響がないように調節して取得させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長が随時面談を行っている。コロナ禍の為、やりがいに繋がるような外部研修の機会は作れなかった。勤続年数による貢献やスキルに応じて昇格をさせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて、法人内外の研修に参加してもらっている。また、資格取得の際も相談に応じて勤務を考慮したりと応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や法人会のサークル活動での交流の機会を作っていたが、今年度はコロナ禍の為、ほとんど取り組むことができなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設している小規模多機能事業所と連携し、今までの生活リズムや人間関係をなるべく継続できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始から慣れていただくまで、なるべくこまめに連絡している。また、日々の関わりもご家族とも相談、協力してもらいながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に事業所に対応できること難しいところを説明してから契約している。利用途中でも経済的なことで利用継続が困難等の希望があれば、特養と連携し、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念でも掲げているとおり、お互いに信頼関係を築きながら相手の視点、立場を考え、思いやりの心をもって対応するように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればご家族へ連絡し、一緒に考えるようにしている。また、ご家族との関係が続くように通院や外出をお願いする場合もある。ご希望があれば外出や外泊などいつでも対応できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や本人から情報を聞き、病院、歯科、美容室などは可能な限り、継続して通うようにしている。	コロナ禍の中、家族のみや時間等の面会制限があり、お墓参りなど家族との外出が支援できていませんが、定期的な理容・美容の訪問や新聞の購読、利用者の中には嗜好の継続でノンアルコールビールを嗜む方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の発言や行動から関係性を把握し、食事席、日中過ごすリビングでの場所などその都度配慮するようにしている。また、可能な限り、利用者皆でゲームや家事作業、ドライブなどを通して孤独にならないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても必要があれば他のサービスへつながるよう情報提供や相談等フォローしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当中心にその方の以前の暮らしや日々の発言、性格などからできる限り情報をまとめ、本人の希望や意向を考え、関わりに反映できるよう努めている。	日々生活を支える中から、好きな事や嫌な事を把握し、本人本位の生活が送れるように取り組んでおり、家族からの聞き取りや生活歴等で願いや希望に沿えるように検討し得た情報は連絡ノートで共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各担当中心に本人や家族、関係者からの情報をアセスメントシートにまとめ、職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方は、支援経過記録、ケアチェック表などに記入し、特記事項があれば業務日誌に記載し、引き継ぎ等を通じて共有し、職員全体で把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新ごとに事業所でカンファレンスを行っている。また、必要があれば随時モニタリング、カンファレンスを行い、職員皆でアイデアを出し合い、プランを作成している。	利用者、家族の意向を反映させて、職員会議でカンファレンスなどで意見交換して、6ヶ月毎に介護計画を作成しています。毎日の様子やケアプランに沿ったサービスの提供を記録に残し、評価や今後の課題に繋げ見直しが出来ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録では、項目分けをせず、客観的事実と主観を分けて記載できるよう工夫し、スタッフ個々の思いを記載できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や買い物などの希望があれば併設している小規模多機能事業所と連携し、できる限り対応できるよう取り組んでいるが、コロナ禍の為、外出の機会は激減してしまった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の療法士と連携し生活機能向上連携に取り組んでいる。また、かかりつけ医からアドバイスを受け、日々のケアに活かしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り、当事業所を利用する以前からのかかりつけ医を継続している。また、症状によって他の病院の受診が必要な場合にもご家族に相談し、必要があればご家族にも同行していただいている。	本人、家族の希望によりこれまでの係りつけ医に継続して受診し職員が同行して利用者の状況を主治医に説明しています。病状の変化があれば家族に報告しています。また、コロナ禍の影響で感染予防対策の観点からオンライン診療も合わせて実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時必要があれば報告、相談している。また、緊急時、急な体調不良時などは事業所の看護職員の指示に従い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、随時担当看護師やご家族に状態や退院の見通しなどを聞くようにしている。また、ご家族の希望があれば、医師との話し合いに参加し、治療方針、退院に向けてのことをご家族とともに話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に重度化した場合の指針を基に説明してから了承を得て契約している。また、経過を見て再度ご家族に確認して具体的な関わり方を決め、支援している。	入居時に、利用者の終末期や重度化に係わる指針を説明し同意を得ています。現状では、療養型医療機関や特別養護老人ホームへの移行が主ですが、終末期には医師、看護師、介護職員で話し合い、出来るだけ本人や家族の意向に沿い支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防主催の緊急蘇生法の研修に参加している。また、緊急時の対応マニュアルを作成し、すぐ確認できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した災害避難を行っている。また、町内会や運営推進委員の方にも参加していたが、一緒に協力してもらえるようお願いしているが、今年度はコロナ禍の為、協力を控えてもっている。	年2回の夜間想定で連絡網の確認を含め火災避難訓練を実施しています。火災が起きたときは町内会には利用者の見守りをお願いしております承されています。	災害は何時起きるか予測は出来ないため、利用者の命やより安全性のため、自然災害に対する避難訓練の実施も重ねる事を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基にひとり一人の方を尊重した関わりをするよう努めている。また、職員会議等でスピーチロックなどの関わりをしていないか振り返りも行っている。	法人の研修、ミーティングで話し合い、言葉がけに気をつけ、尊厳や誇りを損ねないケアに努めています。個人情報に関する各種記録も適正に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の声掛けや関りで自己決定ができるような声掛けをするよう心がけている。また、ミーティングやカンファレンスなどで情報を共有できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせてできるだけ本人に合わせるようにしているが、自分で表現が難しい方は、こちらから関わりを仕掛けることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族から今まで着ていたものをそのまま持ってきてもらっている。また、必要があればご家族や担当のスタッフが本人の嗜好などを考慮しながら用意する場合もある。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方は、野菜などの下処理を行っていたりしている。調理は、毎食リビング近くの台所で手づくりをし、調理のにおい、音を感じられるようになっている。また、利用者の希望を献立に取り入れている。	利用者の希望を取り入れて献立し、利用者は出来る範囲で下ごしらえや食事の準備、後片づけを職員と一緒にしています。畑で採れた野菜や差し入れなどが食卓を飾り職員や利用者同志、一緒に会話をしながら食事を楽しんでいます。誕生会の際に本人の希望を献立に取り入れたり行事食や出前など利用者が楽しみとなるように工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別ケアチェック表シートを活用して摂取量、水分量などを把握できるようにしている。また、月に1回体重測定を行い、健康状態の参考にしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者の状態に合わせて口腔ケアを行っている。また、必要に応じて歯科受診をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別ケアチェック表シートを活用して、なるべくトイレで排泄できるようにケアしている。	職員は排泄の自立支援を基本に、個々の排泄パターンの共有などでトイレでの排泄が出来るよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服用している方もいるが、なるべく必要最小限になるよう個別ケアチェックシートを活用しながらモニタリングしている。便秘の方に対しては乳製品やオリゴ糖を接種していただき、自然排便に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設している小規模多機能事業所と連携しなければならぬので、入浴時間、曜日は決めてしまっているが、なるべく本人の気持ちや体調に沿って時間や曜日を変更する等の対応はしている。	基本午後週2回で、入浴には個々の心身の状況や気分に応じて、楽しんで入浴出来るよう支援しています。入浴拒否の場合は無理強いせず、個々の体調や気持ちに配慮し曜日や時間帯の変更を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や体調に考慮し、関わるようにしている。また、必要があれば、ポジショニング等も行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の内容綴っており、随時確認できるようにしている。また、薬の変更などは、業務日誌に記入し、職員全体で把握し、状態の変化がないか気づくようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の暮らしや職業、趣味などからできることをなるべく行ってもらえるように関わっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば出かけられるようにしているが、すぐ対応が難しいものは、後日や、ご家族に協力をお願いすることもある。しかし、今年度はコロナ禍の為、外出の機会が激減している。	コロナ禍の影響で行事やドライブ等の機会がありませんが、天気の良い日はベランダで日光浴を楽しんでいます。また、利用者の状況に合わせた日常的な散歩で気分転換を図っています。レクリエーションを増やし工夫しながら利用者を楽しみを提供しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方やご家族からの了承が得ている方は、本人が所持している。本人では管理が難しい場合は、ご家族からおこづかいとして事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気が出るよう一般家庭で使用しているようなソファやテーブルを使用している。また、木のぬくもりが感じられる建物になっており、外の様子も見やすくなっている。	共用空間は解放感があり、各テーブルが配置され長時間過ごしやすい環境(照明の明暗、温度、ソファや家具の配置の工夫等)が整えられており、利用者は好みの場所で穏やかに過ごしています。また、家庭的な雰囲気の中、季節感にも工夫や配慮が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や食卓テーブルの配置等、その時の利用者に合わせて随時変更・追及している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具や趣味のもの写真などを飾り、居心地が良い空間になるよう工夫している。	これまでの生活で使い慣れたテーブルやソファなどを利用者は持ち込んでいます。また、位牌や家族の写真、ポスター等の趣味も飾られてあり、その人らしい過ごしやすい環境となっています。各部屋には収納しやすいクローゼットが配置されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所が分かりやすいように表札をつけたり、椅子やテーブルなど共有空間で使う家具は足を切るなどし、低くしているものがある等。個々の利用者に合わせ工夫している。		